

(1)評価基準に沿った評価	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
(2)記述評価						
・全国展開をできるようなマニュアル、ツールを完成させて機構で配布し実際に使用できるようにしてもらいたい。 ・喫煙による悪影響を明らかにし、いかに家族および社会に啓発して禁煙に結び付けるか、具体的なアプローチおよびその結果までが含まれると一層優れた価値の高い研究になると考えられる。 ・指導を受けた児童数があまりにも少ない。 ・個々の課題もサンプル数が少なすぎ、又、特に新しい知見もない。 ・課題をしぼって、より信頼度の高い調査を期待する。 ・教育・指導モデルの構築の研究で、4つのプロジェクトがすすめられた。 ・小1でBA(+)で小6でBA(-)の53.7%の重要な因子の分析は、今後の臨床での寛解への重要な応用になると考える。 ・受動喫煙予防に関する提言がなされている。 ・就学期の患者に対する受動喫煙防止は極めて重要と考えられ、今後の研究展開が期待される。 ・長期にわたる調査実績に基づいて、教育現場におけるぜん息児の指導に関するモデルを提示したものとして評価される。 ・標準モデルとして全国展開することが期待される。						